

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本テストは【義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。】ことを目的として、文部科学省が設置管理者（都道府県教育委員会等）の協力を得て実施するものです。

Ⅰ 結果・分析（○は成果 ●は課題）

(1) 国語 本校平均正答率67%（県71% 国69.8%）

○根拠を明確にして書いたり、情報どうしの関係の理解や文章どうしを見比べたりする内容把握の問題では、全国や県の平均正答率を超える結果となった。

●インターネットの記事を読んで気付いたことについて答える問題では、「理由が書かれていない」という正答に対し、「考えが書かれていない」という誤答が多く見られた。考えと理由を結び付けた読み取りや、情報と情報との関係について理解することに課題がある。

●文章中の接続語を直す意図を選ぶ問題では「調べる理由を明確にする」という正答に対し、「興味をもったきっかけを明確にしようとした」という誤答が目立った。接続語などの役割を理解し、読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめて文章を整えることに課題がある。

(2) 数学 本校平均正答率47%（県51% 国51%）

○正の数、負の数、文字式の計算問題や方程式の解き方に関する問題などは例年に比べ全国や県の平均正答率との差が少なくなっており、全体的によくできていた。

●与えられた数の中から、自然数を全て選ぶ問題に課題が見られた。自然数と整数の区別、自然数や整数などの基本的な用語の意味の理解に課題がある。

● y が x に反比例し比例定数が示されているときの、 x と y の値について正しい記述を選ぶ問題の正答率が低かった。反比例や式についての意味の理解が不十分であることに課題がある。

(3) 英語 本校平均正答率42%（県45% 国45.6%）

○どの問題も無答率が非常に少ない。特に文章表現については、単語だけでも何とか工夫をして書いて表現しようとしている。

●友達からのメールや図書館について書かれた英文などの与えられた情報を読み取り、条件に合うイベントや空所に入る語を選択することに課題がある。

●相手に依頼する表現では動詞の欠落や、与えられた分から書き換える際に have to の意味が分からず、削除できていない等の誤りが多く見られた。

(4) 英語「話すこと」平均正答率13%（国12.4%）

○ジャスチャーを用いたり、説明を付け加えたりすれば、表現したいことが伝わる内容であった。伝えようとする意欲は非常に高く、積極的に会話をしていた。

●限られた時間の中で、相手の話している内容を聞いたり示された資料を読んだりして、即興的に表現をする問題では、代名詞の選択ミスや、表現の正確性に課題がある。

2 対策

(1) 国語

普段の授業の振り返りに自分の体験や知識を交えて記入したり、自分の考えを広げ深めたりすることができたかを書くように指示していきたい。ただ書くだけではなく、意識して振り返りを行うことで授業や単元ごとの目標や課題に向かって主体的に取り組ませたい。

説明文の読解では、接続語に注意して読んだり内容の結びつきについて確認しながら読んだりする習慣をつけさせたい。読み方を習慣化することで、問題を解きなおす際に自分がたどった足跡から、間違えた原因を自分で見つけられるようにする。

(2) 数学

数にはどのような数があるのかを確認することが大切である。ベン図を活用しながら、どの場所にどの数が当てはまるのかを確認し、自然数だけでなく、他の数の意味の理解を深めていく。

反比例の表、式、グラフの特徴について確認し、それらを関連付けて指導をする。表から x と y の関係の特徴を見いだしたり、グラフが通る格子点を求めたりすることを通して、反比例の理解を定着させたい。

(3) 英語

知識及び技能の定着だけでなく、学んだことをコミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて活用できる「思考力、判断力、表現力等」を育成していかなければならない。教科書の内容にとどまらず、日常の、自分の身の周りのことに置き換え、その場面でどのように活用するかを試すパフォーマンステストなどを取り入れる。また、話したことを書いてまとめることや、聞いたことから内容を書きだすなど、領域統合型の授業を単元の中に位置づけて計画的に行う。